

新品種「源生林あしたば」について

株式会社農学研センター

品種育成者 和地 義隆

「源生林あしたば」は明日葉の新品種として世界で唯一の登録済み品種です。(種苗法による品種登録：理恵第14641号)

元来、明日葉は古く江戸時代から伊豆諸島を中心に食用あるいは民間薬として使われてきた植物です。明日葉に含まれる黄色い物質(カルコン化合物…キサントアンゲロールと4-ヒドロキシデリシン)には、制ガン作用、抗潰瘍作用、抗血栓作用、抗菌作用、抗エイズ作用等いろいろな効果があることが解っています。また最近ではクマリン類にアルツハイマー型認知症の予防と治療効果があることが学術的成果として公表されています。

さらに「源生林あしたば」には同等以上の薬効も期待されており、「源生林あしたば」はこれからの野菜として、注目を浴びています。

そして「源生林あしたば」は栄養的にも抜群の内容をもっており、薬草としての評価も高い野菜です。

(源生林あしたばと他の野菜の栄養成分比較) 可食部100g当たり含有量

項目 食品名	食物繊維			カルシウム	鉄	カリウム	ビタミンA		ビタミンB1	ビタミンB2	ビタミンC	カルコン類
	総量	水溶性	不溶性				カロテン	レチノール当量				
	(g)	(g)	(g)	(mg)	(mg)	(mg)	(IU)	(μg)	(mg)	(mg)	(mg)	
源生林あしたば	6.0	1.5	4.5	94.4	1.15	573	5610	935	0.12	0.24	75	のほる明日葉には多量に含まれていない。特に源生林あしたばは多量である。
明日葉(在来品種)	5.6	1.5	4.1	65.0	1.0	540	5300	880	0.10	0.24	41	
さやえんどう	3.0	0.3	2.7	35.0	0.9	200	560	94	0.15	0.11	60	
かぼちゃ	2.8	0.7	2.1	20.0	0.5	400	730	120	0.07	0.06	16	
キャベツ	1.8	0.4	1.4	43.0	0.3	200	50	8	0.04	0.03	41	
きゅうり	1.1	0.2	0.9	26.0	0.3	200	330	55	0.03	0.03	14	
春菊	3.2	0.8	2.4	120.0	1.7	460	4500	750	0.10	0.16	19	

※源生林あしたばは日本食品分析センターの分析結果より(H.P.<http://www1.ocn.ne.jp/~nichinou> で分析結果を公表)

その他の野菜は科学技術庁「五訂日本食品成分表」による

雪に覆われた「源生林あしたば」の新芽

「源生林あしたば」は従来の明日葉と比べて、美味で耐寒性及び越冬性に優れている事が品種特性です。

耐寒性、越冬性については、北海道斜里や岩手県葛巻、富山県においても、生育、越冬を実証しております。

耐寒性、越冬性が有ることにより、どこでも

栽培できますので、従来の明日葉のように伊豆諸島地域に

限定される栽培と異なり、各地で大量に生産することが出来、野菜ばかりか加工品や飼料用にと、ビジネスのエリア、スケールが全く違う明日葉の新品種です。



「源生林あしたば」の社会的サイドからの利用として

1. 「源生林あしたば」を山林の中で栽培して、納税猶予を受けています。

埼玉県所沢などの都市近郊平地林への多額の相続税課税は、農家にとって重い負担となっております。

平地林の納税猶予は認められていない為に相続税が払えず、土地を切り売りしなければならないという現実があります。

所沢では平地林の切り売りが産業廃棄物処理場の乱立を招き、ダイオキシン報道もありました。平地林の中で「源生林あしたば」を栽培しますと、実質的にその土地からの収入は野菜販売によるものですから、地目は山林から畑へ変更となります。そうしますと納税猶予が受けられます。納税猶予が受けられた結果として、多額の納税をまぬがれますので、平地林や屋敷林を売らなくても済みます。緑地も保全されます。



山林における「源生林あしたば」の栽培



山林の中での「源生林あしたば」移植作業

2. 「原生林あしたば」を遊休農地で栽培し収益を得ることにより、遊休農地の解消と発生の防止に役立てています。

全国各地の遊休農地では、雑草の繁茂による病虫害や鳥獣害の発生、火災の発生やゴミの不法投棄による環境の悪化が問題となっております。

遊休農地に「原生林あしたば」を植えることにより、雑草の生育や、繁茂を抑えることが出来ます。また病気や害虫にも強い「原生林あしたば」は、無農薬でも良く生育します。

地主は収益が得られ経済的に潤うことにより、農地を保持、維持できますので、遊休農地の発生が防止されます。



遊休農地での「原生林あしたば」の栽培



遊休農地解消の為の「原生林あしたば」栽培

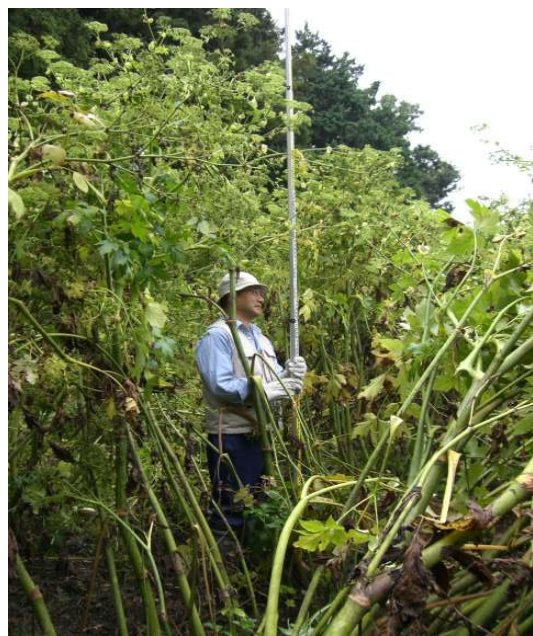
3. 「源生林あしたば」を栽培することにより、カーボンオフセットに役立ちます。

「源生林あしたば」のCO₂吸収が大きく炭素固定能力が高いことを利用して、例えば、自社が排出したCO₂を、自社で「源生林あしたば」を栽培することによりCO₂を吸収し、排出量相殺を行うことが出来ます。

この方法はCO₂排出量削減目標の達成に役立つばかりか、企業のイメージアップに大いに貢献することでしょう。企業から委託を受けて「源生林あしたば」の大規模な栽培を希望する団体も名乗り出てきており、今後が注目されます。

また、企業がカーボンオフセットの為に栽培した「源生林あしたば」を、大量に飼料として利用したいという企業もあり、「源生林あしたば」の栽培はスケールの大きい利用方法が提案されつつあります。

「源生林あしたば」の炭素固定能力は東京大学浦野豊博士により実証されております。



高さ2.85Mにも生長した「源生林あしたば」



「源生林あしたば」は、大型で生育旺盛な新品種。

オフセットクレジット制度に関して、(株)農学研センターとして本年11月5日に環境省地球環境局地球温暖化対策課に対して、オフセット・クレジット(J-VET)制度案に対する意見書を提出しました。

近々に「源生林あしたば」栽培がポジティブリストに加わり、クレジット創出の案件として利用されることを強く要望するものです。

カーボン・オフセットにつきましてはカーボン・オフセットフォーラムから多数の情報が出されております。

<http://www.j-cof.org/>

カーボン・オフセットにおける「源生林あしたば」の活用法について

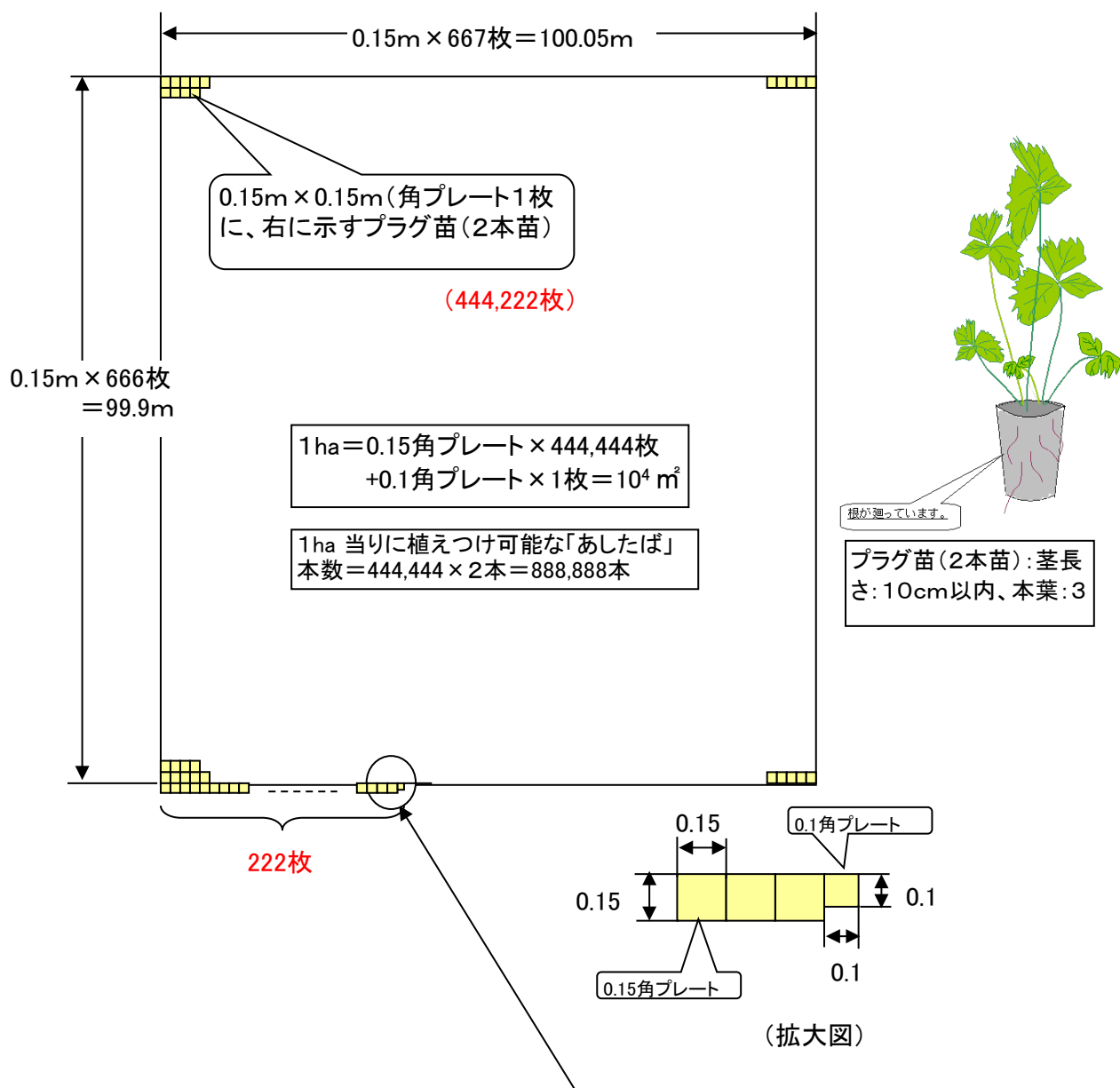
カーボン・オフセットとは、自分の温室効果ガス排出量のうち、どうしても削減できない量の全部又は一部を他の場所での排出削減、吸収量でオフセット(埋め合わせ)することを言います(環境省カーボン・オフセットの定義)。

日本では、環境省によるオフセット・クレジット制度に基づいた検証等を受け取ることで、信頼性の高いオフセット・クレジット(J-VER)プロジェクトとして、認証が受けられ、クレジットの発行を受け取ることができます。環境省気候変動対策認証センターから発行されたオフセット・クレジット(J-VER)は、市場における流通が可能となり、金銭的な価値を持ちます。

(株)農学研センターは、本年11月5日に、環境省地球環境局地球温暖化対策課宛に、「源生林あしたば」をポジティブリストに加えて、オフセット・クレジット(J-VÉR)創出の案件として利用できる様に
する為に、オフセット・クレジット(J-VÉR)制度に対する意見書を提出しました。

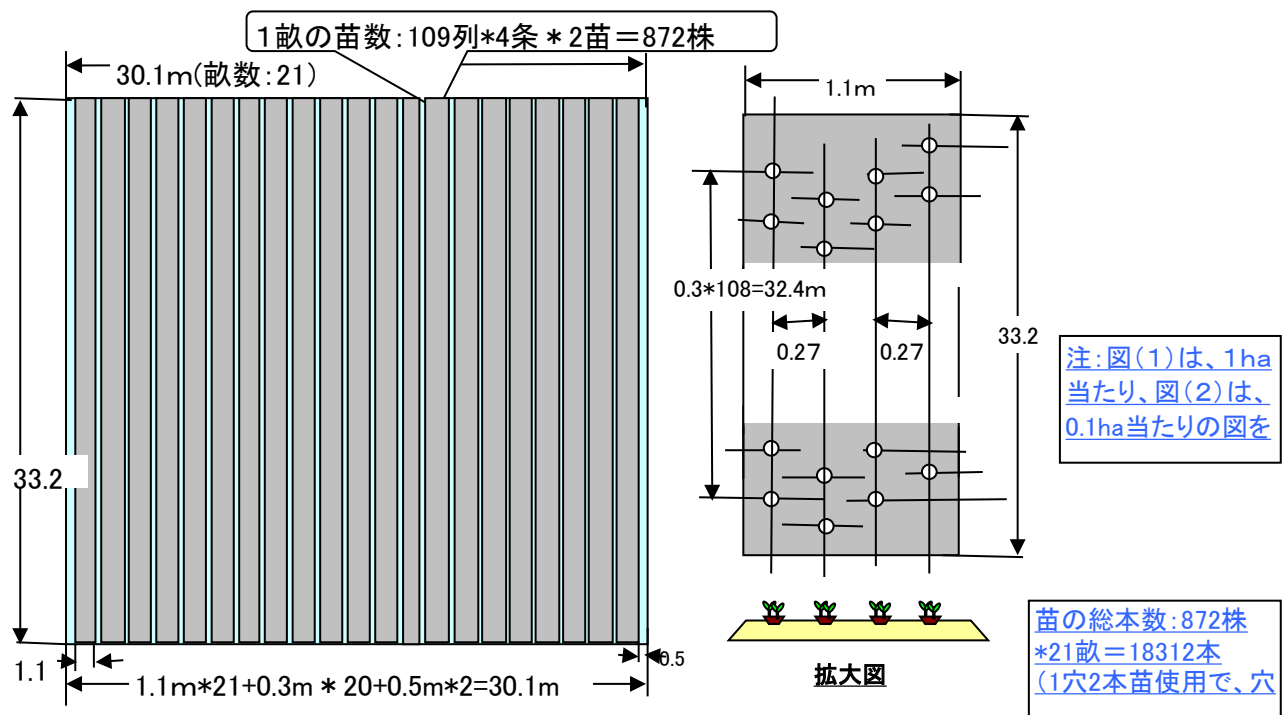
その意見書の中で、「原生林あしたば」のCO₂吸収能力は、1ヘクタール当たり、1年間で1460トンであるとしています。これは、図(1)の様な、弊社栽培マニュアルに基づくものです。

図(1) 原生林あしたば栽培能力(MAX)図(耕地面積:1ha)



㈱農学研センターは、今後、図(2)の様な「原生林あしたば」の栽培設計をしております。この場合、CO2吸収能力は、1ヘクタール当たり、1年間で300トンとなります。このマニュアルは、カーボン・オフセットの件への取組みと同時に、栽培された「原生林あしたば」を野菜として、加工品として、医薬品原料として、飼料として、様々に利用して頂く為に、効率良く栽培、収穫できる設計です。今後、この栽培設計の圃場においても、「原生林あしたば」炭素固定能力を引き続き実証していきます。なお、オフセット・クレジット(J-VER)については、環境省による認証を受けてから発行されますので、信頼性が高いものと言えます。

図(2) 原生林あしたば栽培計画図(1穴2本苗:21畝,千鳥*0.3ピッチ):機械植え(0.1ha)



CO2を排出する企業にとっては、自社で「原生林あしたば」を栽培してCO2を吸収し、自社CO2排出量が実質ゼロになる状況を作り出すことは、地球的な社会的使命であります。成し遂げる事により、企業のイメージアップとなり、その結果、株価の高値安定にもつながる一要素となり得ます。カーボンポジティブとなれば、オフセット・クレジット(J-VER)として、他社へ販売し、ビジネスにもなります。

「原生林あしたば」を栽培した企業は、栽培された農産物としての「原生林あしたば」を野菜や加工品、医薬品原料または飼料等色々として販売することができます。明日葉は元々、薬効が期待される人気のある野菜ですので、購入希望者も多く寄せられています。また、企業からのオフセットの為に栽培を引き受けたいとする農業団体も出てきており、今後が注目されます。

㈱農学研センターは、企業からの要望に対して、積極的に対応していく用意があり、かつ環境省によるオフセット・クレジット制度に基づく検証も積極的に受けていく方針です。

お問い合わせは、㈱農学研センター 和地 義隆まで。

〒312-0033 茨城県ひたちなか市市毛1087-1

TEL:029(272)4182 FAX:029(272)4221

Eメール info@nougakuken.com

ホームページ <http://nougakuken.com/index.html>